

芸術科 書道

(1)小中学校の国語科書写の「正しく」整えて速く、読みやすく書く」をさらに高め、書芸術として、さまざまな変化と調和による美しさを追求していく授業である。

①道を歩けば必ず前に進む

習えば必ず上達する。(遅いぐらいの方が大成すると言われる)

習っている間に磨きがかかり、天分が輝いてくる。その瞬間を味わえた人は幸せである。

②美を感じる力を鋭敏にしよう

名蹟が美しい感じさせる可能性と人間が美しいと感じる可能性が触れ合った時に美が成立する。

美を感じる力を養ったり、表現方法を知るためには、名蹟を鑑賞して、作品形成の要素や表現の原

理を理解しなければならない。

(2)書道道具を大切に(筆・紙・墨・硯) = (文房四宝という)

(3)授業時間の大半は「臨書」で十分に時間がある。自身の集中力や粘り強さを確かめるよいチャンスである。

(4)日常生活の中、感動を覚えた語句を作者などメモをしておくといよい。

(5)各学年での学習内容

	高校一年	高校二年
前期	(1)芸術科書道(書の美を求めて)の学習について ①臨書(書写)力を高める ②文字の造形とその調和による美しさを追求する ③自らの創意工夫による書表現をする (2)楷書(かいしよ)の学習 (鑑賞と臨書の創作) (3)行書(ぎょうしよ)の学習 (鑑賞と臨書の創作)	(1)書の変遷 ①中国の書の流れ ②日本の書の流れ (2)篆書(てんしよ)の学習 (鑑賞と臨書と創作) (3)篆刻(てんこく)の学習 (雅印を刻る) (4)隸書(れいしよ)の学習 (鑑賞と臨書と創作) (5)草書(そうしよ)の学習 (鑑賞と臨書と創作)
後期	(4)仮名(かな)の学習 (5)漢字仮名交じりの書の学習 (短歌・俳句・名言・手紙など) 漢字と仮名の調和を図り創意工夫する (6)生活の中の書の学習(本や新聞の題字・看板・広告・工芸品・手紙・印など) 「書の美的効果を生かし、生活に潤いや豊さをもたらす」ことを理解し、実際に試みる。	(6)行書(ぎょうしよ)の学習 (鑑賞と臨書と創作) (7)楷書(かいしよ)の学習 (鑑賞と臨書と創作) (8)仮名の書の学習 (鑑賞と臨書と創作) (9)漢字仮名交じりの書の学習 感動を覚える語句・詩文や生活の中の切実な言葉を選び、学習してきた漢字・仮名の表現法を生かし調和よく書き上げる。